

第二章 寺院

第一節 寺院の変遷と概況

仏教が公式に伝えられたのは、五三八年（五五二）ともいわれるが、渡来人の間では信仰がなされていたとみられる。菩薩の四仏四獣鏡などの発掘からそれが推測できる。

甲斐における仏教の端緒は、はっきりしないが、寺本廃寺（春日居町）が最も古い寺跡であろう。それに中巨摩郡敷島町天狗沢字北川付近から、大量の平瓦、丸瓦、須恵器などの破片が発見されたこと、その様式が三国時代（六七六以前）の新羅のものに類似しているとの末木健氏の報告がある。そのことから古寺があった。それは万寿森古墳↓加弁那塚古墳などを築造した地方豪族か、その関孫者が建立したものと観察している。

県内には寺本廃寺や国分寺のほかにも史実とは断定できないが、『甲斐国志』や『甲斐国社記・寺記』から古寺を挙げるができる。

万福寺（勝沼町等々力）三光寺（勝沼町菱山）楽音寺（一宮町塩田）東漸寺（須玉町若神子）円楽寺（中道町右左口）立正寺（勝沼町休息）大善寺（勝沼町柏尾）西念寺（富士吉田市）長谷寺（春日居町鎮目）瑜伽寺（八代町永井）雲峰寺（塩山市裂石）慈観寺（下部町久那土）最勝寺（増穂町）鷹尾寺（増穂町）西光寺（甲西町）薬王寺（三珠町）長谷寺（八田村）七日

子廃寺（塩山市）白雲寺（市川大門町）などを挙げることができる。

一つの傾向として、東八代郡一宮町から東山梨郡勝沼町・春日居町方面に多く存在したことがうかがえる。それは国庁の所在地に近接したところで、豪族の古墳築造から、寺院創建への移行を示すものでもある。

古寺創建には、行基と弘法大師によるという伝承が多い。行基開創説を打ち出すことによって、棟別銭の賦課を有利に進める大善寺などのあったことを磯貝正義氏は『山梨県の歴史』の中で指摘している。

行基は、百済系の帰化人で母の系統も蕃別。生家は和泉国の地方の裕福な豪族であった。行基を指導者とする宗教運動は地方の豪族から民衆の心までとらえた。行基は高度な技術を持つ文化集団を率いて、社会的事業を広く進めた。行基開創説を持つ古寺がいくつかあるが、おそらく行基の弟子たちの手で造立されたものであろう。

古寺でも国分寺などの官寺は、大陸様式で国の権威を象徴し、豪壮に造立されたが、私寺であった大積寺（一宮町）・雲峰寺（一宮町）・円楽寺（中道町）などは、規模も小さく雑然としていたといわれる。

寺院を「山梨県宗教法人名簿」でみていくと、寺院数は一千四百五十六寺で、多い順に掲げてみる。一位は曹洞宗で五百十一、二位は日蓮宗三百九十四、三位臨済宗妙心寺派百五十六、四位浄土宗八十六、五位臨済宗建長寺派五十六、五位曹洞宗向岳寺派五十六、五位臨済宗南禅寺派五十六、七位浄土真宗本願寺派三十六、八位浄土真宗大谷派三十五、九位真言宗智山派三十五、十位高野真言宗二十七、十一位真言宗醍醐派二十である。以下略。

南都留郡も臨済宗妙心寺派が十一カ寺、曹洞宗六カ寺で禅宗系が多く、県内全般とやや似た傾向にある。なお都留市、富士吉田市も同様の状況にあるといえよう。

本村の通玄寺はもと天台宗だった。天台宗は県内に現在六カ寺しかなく、光福寺（山梨市東後屋敷）宝寿院（大月市猿橋町）宝寿院（三富村柚木）不動寺（勝沼町）東門寺（南都留郡忍野村）法性寺（北都留郡上野原町）などである。

天台宗は鑑真によって伝えられたが、はじめは振るわず、慈覚・智証と続いて宗風をあげ、真言とともに平安仏教の中心になる。県内では、麿平塩寺、大蔵経寺（石和町松本）後に真言宗に観音寺（石和町市部）広済寺（八代町奈良原）月江寺（富士吉田市）は称光院といつて浅間明神の祈願所であったが、観音寺・広済寺とともに臨済宗に改宗した。さらに光沢寺（甲府市）三光寺（勝沼町菱山）超願寺（一宮町塩田）浄泉寺（都留市禾生）福正寺（塩山市）などは真宗になった。また、無辺寺（大月市）は浄土宗に転じている。

天台宗は伝教後間もなく、山門（叡山）、寺門（園城寺）の両派に分かれ、それに室町時代になると真盛派が分派するなどの動向に加え、新派である鎌倉仏教、法然の浄土宗、親鸞の浄土真宗、栄西の臨済宗、道元の曹洞宗、日蓮の法華宗が興ってきたことで、勢力が弱められてきている。

通玄寺は天台宗から臨済宗に改宗しているので、ここで臨済宗について概観してみたい。

臨済宗は、中国唐代の高僧、臨済義玄を開祖とする禅宗の一派である。日本へ臨済禅を伝え、日本臨済宗の開祖になったのは、栄西である。栄西は比叡山で天台宗を学び入宋して天台山で修行し帰国後、建仁寺の開山に迎えられた。

この宗派の特徴は、人間に生まれそなわっている仏性を修行（坐禅）によって見出し、日常の現実生活のなかに自己の宗教的人格を実現していくこと。そして、労働（作務）を尊び、坐禅を重んずるところにあるといわれる。

本尊は釈迦牟尼仏を大思教主と仰ぎ、その因縁によって、釈迦如来・薬師如来・大日如来・観音菩薩などを安置する寺が多い。

蘭溪道隆は、時頼の帰依をうけ鎌倉に建長寺を開く。その後弘安元年に甲州に入り、東光寺（甲府市）、大草に永岳寺を創建した。道隆の弟子寿三は広教寺（都留市）を開創。その門下の関悟は宝珠寺（上野原西原）、宝生寺（小菅村）

を造立した。このころ、月窓によって瑞光寺（上野原町桐原）も建立されている。貞和四年業海本浄は天目山に棲雲寺、能成寺（甲府市）を創し、業海本浄の嗣法無二之元によって、慈雲寺（御坂町）が開創された。

無学祖元の法系から夢窓疎石が二階堂道蘊の要請により恵林寺（塩山市）を開いた。また、足利尊氏によって清白寺（山梨市後屋敷）が開かれ夢窓が開山になる。なお、永泰寺（上九一色村古関）長浜に東光寺、大井古長禅寺も再興している。夢窓の弟子月舟周勲は法泉寺（甲府市）長松寺（甲府市）それに法孫竺峰は積翠寺を再興している。

恵光大円禅師といわれる拔隊得勝は、武田信成の請によって向岳寺（塩山市）を開いて向岳寺派の祖となった。また、拔隊得勝は、慈徳院（塩山市千野）を営み、その弟子絶学祖能禅師は、月光寺（富士吉田市）、花井寺（大月市七保）を再興した。拔隊の法系虎溪道竜は、康応年中に広済寺（八代町）の開山になる。同じく法系から道雲が出て聖応寺（境川村）を開創し、瑜伽寺（八代町永井）も再興している。

第二節 村内の寺院

成沢山通玄寺 鳴沢村二五一

住職 伊賀上明教

宗派 臨済宗妙心寺派

本尊 薬師如来

開山 絶学祖能禅師

慶応四年の『社記・寺記』によると、



成 沢 山 通 玄 寺

京都花園妙心寺末

都留郡下吉田村月江寺派下

寺内山林共除地 三斗八升三合

本仏 薬師如来 丈五寸ニ而坐像ニ御座候

本尊 七間半 五間半

庫裡 八間半 拾卷間

観音堂 三間 四間

鎮守 天満宮 六尺四方

寺伝によると元和二年（一六二六）の大火で古記録を焼失したために、由緒は不詳であるとしているが、往古は天台宗で成沢坊と称し、富士七坊の一つだったという。文明元年（一四六九）に閑公書記禅師が信徒と諮り禅宗に改め、成沢山通玄寺にした。享保四年（一七一九）に、今の地に伽藍を建立し、本尊薬師如来で脇士日光月光菩薩、開山として絶学祖能禅師を勧招す、とある。

開山を絶学祖能禅師としているが、『甲斐国志』では、開山不詳ナラとしている。

絶学祖能禅師は、塩山向岳寺の開祖抜隊禅師の法孫で、当都留郡にきて、下和田村の花井寺を再建し、上吉田に於て、祥春庵を建立し、毎年富

士登山の六・七月の頃に、道路に出て、富士山詣の導者に勸進した。多くの協力者の助力を得て寺を建立し、月江庵と号した。月江庵は、向岳寺に属した。絶学禅師は応永三十五年（一四二八）に没した。

禅師は、絶学祖能禅師と呼ぶのが正式で、墓は月江寺にあると『甲斐国志』は記している。

寺伝でいう開山が絶学禅師であるとすると、本寺も月江庵と同じように、向岳寺派に属したと推定される。また、歴代一世閑公書記禅師がいたり、準開山完領智徹の存在から見ると、絶学祖能禅師の開山については、名目上の開山か、事実上の開山か今後の課題である。

本寺の観音堂の「千匹馬」は、観音堂（三間×四間）の内外を飾った大作で、極彩色を施した駿馬の百相千態は、非凡な逸作である。この「千匹馬」は、氷堂春信（六郷町）の作品である。氷堂は一年あまり本村に滞在して完成させた。

氷堂は、津向の文吉の子で、書・画などすこぶる多才で、南部町本郷寺本堂の天井画の「竜」などの傑作がある。「千匹馬」には、明治二十二年、西八代郡鴨狩津向村宮沢栄吉氷堂」と明記して奉納したものである。

次に通玄寺年表を掲げてみると。

延暦二四（八〇五）天台宗開宗・伝教大師、最澄、薬師如
文明 元（一四六三）禅宗に改宗。歴代一世再興閑公書記禅
来を本尊とする。師。

貞観 六（八六四）富士山大噴火。

鳴沢坊建立、四天王寺別院

建久 二（一一九一）鳴沢阿闍梨良山源義経を三島に案内す

る。

元和 二（一六一六）鳴沢大火。堂屋什宝焼失する。

宝永 二（一七〇五）通玄寺より忍野承天寺へ住職祖昌入山
する。

享保 四（一七一九）禅室落成。

延享 二（一七四五）泰樹祖桂住職。

正長 元（一四二八）開山絶学祖能禅師遷化。

第二章 寺院

- 寛延 二(一七四九) 準開山完領智徹住職。
 宝曆 元(一七五一) 泰樹祖桂和尚遷化。
 安永 四(一七七五) 大般若波羅蜜多經納め初める。
 天明 六(一七八六) 養得院・乗證院より観音堂祭祀使用綴子奉納。
 寛政 三(一七九一) 桃雲楚隆住職。
 〳 七(一七九五) 完領智徹和尚遷化(檀家數百四十六軒)。
 寛政 一(一八〇〇) 十二月十八日百番奉納観世音菩薩のぼり二本。
 享和 元(一八〇一) 本堂屋根替え。一軒三百二十二文。
 文化 五(一八〇八) 百番之外馬頭観世音之尊像一躰成沢馬喰講中奉納。
 〳 七(一八一〇) 四月客殿さしがや入用二朱銀と三貫五百二十八文。畳替えにつきござ一枚百七十九文。一月十七日吉祥寺香代見舞い。八月都留市夏狩長慶寺火事見舞い。
 〳 一三(一八一六) 庫裏屋根替え。
 〳 一四(一八一七) 隠居屋破損官位金集め。総檀家數百七十。鳴沢村永三十五貫百八十文。大田和村永二十五貫九百九十七文。小海村一貫九百一十一文西の海一貫九百一十一文。保山宣秀住職。
- 文政 五(一八二二) 桃雲楚隆和尚遷化。
 〳 六(一八二三) 小立常在寺入仏式にて開眼見舞い。
 〳 七(一七二三) 桃雲楚隆和尚三回忌。本年より本堂造作金集める。
 〳 九(一八二六) 本堂造作はじまる。
 〳 十(一八二七) 庫裏畳表替え。
 〳 一二(一八二九) 物置屋根替え。本堂畳替え。
 天保 元(一八三〇) 小立常在寺五百五十年忌見舞金二朱。
 〳 四(一八三三) 隠居屋根替え。
 〳 七(一七三六) 鳴沢大火見舞金七百文。
 〳 九(一八三八) 十一月、薬師如来厨子共購入金九貫二分。十二月、月江寺火事見舞い。
 〳 一二(一八四一) 庫裏棟とり、鳴沢村六貫百十三文。大和田村四貫百十七文。小海村二百九十二文。西海村百三十文。
 〳 一四(一八四三) 恐山智謀住職。
 嘉永 二(一八四九) 観音堂修復勸化。
 〳 五(一八五二) 保山宣秀和尚遷化、九月六日。開山石塔建立。
 安政 四(一八五七) 大般若波羅蜜多經八十二卷。一卷につき六文目ずつ。金八貫十二文。
 文久 二(一八六二) 庫裏屋根替え。
 〳 三(一八六三) 百万遍の數珠(大田和阿弥陀堂) 恐山

和尚銘あり。

明治 四（一八七二） 恐山智謙和尚遷化。七月

〳 一（一八七八） 隠居屋売却七円九十銭。

〳 一二（一八七九） 柴原泰嶺住職。

〳 一五（一八八二） 観音堂修復及び屋根替え。

〳 二二（一八八九） 豁堂宗達住職。

〳 三一（一八九六） 柴原泰嶺和尚遷化八十六歳。

〳 三八（一九〇五） 養道玄育住職。

〳 四〇（一九〇七） 恩山式。

昭和 一六（一九四一） 養道玄育和尚遷化。

〳 一七（一九四二） 瓊山玄教住職。

〳 二六（一九五一） 鉢・大鼓質入れ本山寄付金へ。

法系

開山絶学祖能禪師—悟溪宗頓—伝法初祖完領智徹—桃雲楚隆—保山智秀—恐山智謙—柴原泰嶺—豁堂宗達—養道玄育—瓊山玄教—円応明教

法係

閑公書記禪師—一応祖円—学能来林—天桂昌公—黙岩説公—覚翁了迪—完領智徹—桃雲楚隆—保山智秀—恐山智謙—柴原泰嶺—豁堂宗達—養道玄育—瓊山玄教—円応明教

主な行事

一月 厄除け大般若会

〳 二九（一九五四） 保山宜秀和尚百年忌徒弟明教得度式。

昭和 四三（一九六八） 初穂料を現金にて集金する。本堂水引

戸張を恩賜林借地権利金（坪二十四

円）の収入があつた者にて寄進。庫裏・

本堂裏側の廊下・便所・棺置場等修

理。隠寮（別院）の建築。

〳 四九（一九七四） 庫裏の居間・応接間・台所改築、円応

明教副住職。

〳 五三（一九七八） 庫裏本堂畳替え。円応明教恩山式。瓊

山玄教隠居。

〳 五七（一九八二） 庫裏・本堂・観音堂屋根改修（銅板）。

二月十五日 涅槃会

四月十八日 観音堂大般若会

五月 八日 花祭（一か月おくれ）

十月 五日 達磨忌

主な行事の中で、四月の観音堂の大般若会は、かつては、秩父三十四体。西国阪東三十三体。十一面観音一体合わせて百一体の御開帳の中、縁寺の十余人の僧侶が大般若経を転読、古閑や久那土など河内方面、猪頭や人穴など駿州方面、郡内は内野・山中・都留方面からも、この大般若会に参詣人が集まり、役所黙認の賭博場が沿道のあちこちで開かれたという。この祭りのにぎわいをきいた六郷町津向の絵師・氷堂も来村して長期滞在「千匹馬」を完成させたと伝えられている。

参考文献 『甲斐國志』・『甲斐國社記・寺記』・『仏報なるさわ』『正法山妙心禅寺宗派圖（東海派下）』・その他

（弦問 耕一）